

「3年間のもらい物」 利尻町立利尻中学校3年 鎌田 新大

僕には三年間誰一人として欠けることなく、ともに過ごすことのできた12人の仲間そして親友がいる。この三年間で僕はこのメンバーでしか、味わうことのできないたくさんの思い出を作り上げることができた。そんな中学校生活も後半に入り、皆がそれぞれの将来への進路を決める大事な時期へと入った。思い返してみると、僕はこの仲間たちからたくさんのかげがえのない物をもらった。みんなとともに乗り越えた壁、時にはぶつかり合うこともあった。むしろそんなことの方が多かったのかもしれない。しかし、だからこそ僕はみんなと一緒になんでも言い合えるこの関係を築き上げることができたと思っている。

3年前の4月僕たちは、新しい生活に胸を膨らませ、部活動や教科ごとに変わる先生などの小学校とは全く違う環境に困惑こそしていたものの、全員が毎日を楽しみ最高のスタートを切った。そして去年の4月一つ下の後輩を迎え入れ、僕たちはさらにひとつ大人へと近づいた。2年目ということもあってか、最初の大きな行事体育祭の初めは順調なものに思えた。ところが本番に近づくにつれ、なかなか伸びない記録に皆がたびたび荒くなる言動や行動をし、焦っていた。当時学級委員だった僕もまとめる立場でありながら人にあたってしまうこともあり、なかなかみんなを一つにすることができなかった。そんな中僕たちを一つに束ねてくれた存在がいた。担任の先生方や先輩たちであった。いつも僕たちが目指す方向へのヒントを与えてくれる先生方、そして失敗をしながらも何度も立ち上がり笑顔で練習をしている一つ上の先輩たちの背中を見て、僕たちはその大きな行事を乗り越えることができた。その経験もあり、その後の学校祭、今年度の行事でも練習から本番までだれの目から見ても大成功と言える形にすることができた。

この中学校生活でそんな失敗をも協力して乗り越えることのできる最高の仲間たち、先輩後輩、先生方に出会えたことを、このようにこれまでを振り返ることで、ぼくはどれだけ恵まれていたのかと改めて知ることができた。そんな恵まれた環境で3年間を過ごすことができたこと。すごく幸せだと思っているし、心から誇りにも思っている。残り3か月弱、卒業を前にして今、名残惜しい気持ちだけが浮かぶ。3月を迎えれば皆それぞれの道に進み、ほとんどが離れ離れになってしまう。15年間このメンバーで過ごしてきた僕は、家族を失ってしまうような気持である。しかしこの名残惜しい気持ちがあるからこそ、自分にかかわってきた全ての人たちからもらってきたもののそれ以上のものを卒業までの日数で倍返ししていきたいと考えている。

この3年間を見守って応援してくれた人たち、そしてかけがえのない物を僕に与えてくれた同級生。

いつも、いつまでも。ずっとありがとう。